

## 日本建設技術

〒847-1201 佐賀県唐津市北波多 1417-1  
Tel.0955-64-2525  
<http://www.nkg-net.co.jp/>

# 研究へのたゆまぬ努力で環境 分野の課題解決技術を開発

### 品質の確保が信頼感に

建設・土木事業を営む日本建設技術（原裕社長）は創業から60年以上の歴史を持つ。1995年に現在の社名に変更して以降、従来の建設業・コンサルタント業に加えて工法考案といった技術分野にも事業を拡大した。「高品質の確保が会社への信頼感を高める」との考えのもと、原社長は常に「技術力の向上」を社員に呼びかけている。



原裕社長

### 高評価の「ミラクルソル」

同社が近年、力を入れるのが環境分野だ。工学博士でもある原社長は自らいくつもの土木工法を開発しており、なかでも水質浄化や緑化に効果を発揮する材料「ミラクルソル」を用いたミラクルソル工法は高い評価を得ている。ミラクルソルは廃ガラスをもとにそれを再資源化して作り出す材料。水産養殖場、ダム流入河川水などにおける水質浄化や道路、ダム、宅地などの緑化などに効果を発揮する。12年には日本水大賞水開拓賞や佐賀県土づくり本部長表彰、14年には地盤工学会九州支部技術賞を

連続受賞している。最近では羽田空港国内線第一旅客ターミナルの屋内庭園「花の楽園」の池にも採用されるなど、さまざまな場所で活用されている。

ミラクルソルで原社長が期待するのが「有明海の底質改善」である。同社は佐賀大学と連携し、「有明海の底質改善と生物生息の再生事業」を9年間行った。それにより、有明海で問題視されていた生物の呼吸を阻害する酸揮性硫化物の生成を抑える効果があることが判明した。また、昨年には台風などの自然災害による分級現象を緩和する効果があることも確認している。ミラクルソルの活用によって有明海が再生することが証明され続けている。

### 気候変動に対応した技術を開発

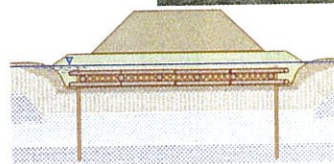
もう一つ、注力するのが同社が開発したラフト&パイル工法による軟弱地盤対策である。同工法は間伐材を用いた工法で、木材をラフト（いかだ）とパイル（杭）の形状で組み合わせることで、地盤を強固にできる。既往の実験でも地下水以下に保つこと

水質浄化工法（羽田空港の「花の楽園」）



で高い耐久性が維持できることを証明した。佐賀県は軟弱地盤でもあり、今後、広く活用されることが期待されている。

7月には集中豪雨により、福岡・大分両県で土砂災害が起きた。同社長は斜面防災対策技術協会の副会長でもある。今後も天災による斜面災害の拡大を危惧する。「地球温暖化で想定外の天災が起きている。地盤をきちんと考慮した開発が必要だ」と訴える。同社でも気候変動に対応する技術開発を進めていく考えだ。



ラフト&パイル工法のイラスト(左)と外観(上)